

■日時 : 2004. 10. 2(土) 14:00～14:55

■場所 : 日本ビクター労働組合本部 勤労会館3F会議室

書記:西郷治男

1. 開会 [14:00]

- はじめに、司会の高石副会長より開会挨拶が行われ、続いてあらかじめ事務局で準備した総会役員が提案された。出席者の賛同を得て、議長に土屋 真氏が登壇した。

2. 総会成立 [14:03]

- 議長の土屋氏から自己紹介があり、書記の任命(西郷)が行われた。
- 次に議長より、総会の成立が宣言された。(出席予定 30 名中、役員含め出席 28 名)

3. 会長挨拶 [14:05]

- 菅沼会長より、発足後2年間の経過を踏まえて今後の活動についての挨拶があった。
<要旨>
 - ◆JVCシニアクラブも本日、第3回目の総会を迎えることとなった。発足時も昨年も参加者は同程度であったことから、昨年の総会で「来年は会員拡大で50名を目標に！」と掲げたが、今回も参加者は同程度となり、この総会の規模は30名程度かと思っている。
 - ◆現在の会員は121名であるが、この2年間で6名の退会があり、残念ながら減少を埋めきる入会が行われていないのが実態である。
 - ◆本日はビクター労組より宮本委員長、君塚副委員長にご出席いただいている。ビクターの現状も厳しい状況にあり、日常ご苦勞されている中で、当シニアクラブに対して物心両面でご援助いただき、心よりお礼を申し上げたい。また、この会のキッカケを作るのは現役の支部役員による退職者への勧誘であり、その面からも是非ご協力をお願いしたい。
 - ◆シニアクラブ会員数は、JAM(上部団体)全体で5000名を擁する規模になり、内ビクターが121名という現状である。高齢化社会が進展していく昨今、高齢者に対する国の政策、社会保障、福祉政策などがどんどん低下されているという認識を持たざるを得ない。JAMシニアクラブとして、これらにどう対応していくかが重要であるが、やはり我々自らが一丸となって要求を訴え、改悪反対の声を上げていかねばならない。
 - ◆昨年11月の衆議院選や今年7月の参議院選の結果を通じて、いよいよ小泉政治からの政権交代も可能な状況になってきた。今こそ、高齢者政策、福祉政策の低下を阻止する動きに結びつけていく時である。
 - ◆シニアクラブも発足後2年間で各地域に支部組織が広がり、現在では神奈川、東京、群馬、千葉、茨城の5支部で支部活動が行われている。今後は、各地域のシニアクラブと連携しながら、具体的活動を推進し、前進ある成果を会員拡大へと結びつけていきたい。また全員が一堂に会するのは難しいことではあるが、年1回は集まれるよう、これからも何とか努力していきたい。

とか努力していきたい。

◆冒頭の現会員数からして、今年度も最重点活動は「会員拡大」が第一であり、役員としても引き続き努力していくが、現在の会員1人が1人紹介・入会すれば倍になるのであり、全員が会員拡大に一層の協力をいただきたく、改めてよろしくお願いしたい。

◆本日は総会のあと、初の組織内議員である横須賀市議会・伊関議員に「地方自治における高齢者対策」の講演をいただくことになっており、有意義な機会としていただきたい。

4. 来賓挨拶 [14:15]

●ビクター労組より、宮本委員長が出席され、祝辞を含めた挨拶があった。

(他に、ビクター労組から君塚副委員長、川崎中央執行委員(シニアクラブ担当)が出席)

<要旨>

◆第3回のシニアクラブ総会の開催にあたり、現役を代表して心よりお祝い申し上げたい。私も委員長として5年目を迎え、3期目に入る。

◆ビクター労組もここ数年の構造改革によって組合員数は 7000 名を割る状況にあり、組織的にも厳しい時代になってきた。今年は役員改選期であり、9月の大会で新旧役員の交代が行われ、副委員長には前菊池から君塚新副委員長に、書記長は前関川から館石新書記長という体制となった。総務関係は当クラブも含め、引き続き川崎が担当する。

◆会社の状況はデジタル家電の追い風はあるものの、部品事業など新たな局面を迎えており、今年になって小山工場閉鎖を行った。今後はDY事業の主体を中国の福建工場に移し、これまでの一部の担当は大和工場の光ピックアップ事業と一体となってやっていくことになった。電機業界もプラズマや液晶テレビ、DVDレコーダーなどデジタル家電を中心とした好調さが見られるが、韓国、中国メーカーの台頭により米国など海外では既に低価格の過当競争が激化してきている。VHSビデオは 10 年間で半値になったが、DVDプレーヤーは2年で半値になるという予断を許さない状況にある。

◆一方、今年度より向こう3ヵ年の中期計画である「躍進21計画」がスタートした。最終目標の2006年度末に営業利益率5%、CCM(Capital Cost Management、松下G独自の投資効率の経営指標)ゼロ以上の目標を掲げて、成長戦略の加速と構造改革を中心とした新たな取り組みを推進している。成長戦略ではディスプレイと光ディスクを伸ばし、新たな部品事業に向けた改革などが行われているが、組合員の職場を守るという点では求められる施策を模索しているという難しい状況にある。

◆また新しいディスプレイ素子として長年取り組んできた D-ILA は、従来よりも薄型のリアプロジェクションテレビとして北米で発売したところ、各方面から大変な好評を受けており、国内発売も含めて今後大いに期待できるものである。

◆業績面では利益の回復に比べて、売上の回復が難しい状況にあったが、こうした新たな商品の動きが売りの成果にも出てきた。上期決算は 10 月末に確定するが、直近の第2四半期では売上は良かったが、逆に利益が厳しかったようである。下期は期待の新商品投入など、いいネタが揃い始めており、ぜひ真の回復につながることを期待したい。

◆日頃、菅沼会長には大変お世話になっており、昨年 4 月の横須賀市議会議員選挙では伊関功滋後援会会長を引き受けていただき、また7月の参議院選挙では津田やたろう

をシニアクラブ一丸となって応援をいただき、見事当選を果たすことが出来た。これからは益々政治改革運動が必要になってくるが、これからもシニアクラブと連携した活動をよろしくお願いしたい。

5. 報告 [14:25]

●大西事務局長より、(1)(2)一括で活動報告が行われた。

(1)平成 16 年度活動報告 <議案書 2～3 ページ参照>

<概要>

- ◆役員会(幹事会)は 4 回開催。特に2つの選挙への対応の話し合いが多く持たれた。
- ◆会員拡大への取り組みは、現会員を中心に紹介パンフの配布などを実施したが、倍増目標には至らず。定年退職者の入会に対し退会者もあって、会員数は横ばいとなった。
- ◆国政選挙の取り組みは、JAM 及びビクター労組の要請に基づいて各地域で展開した。
- ◆地方 JAM シニアクラブへの行事参加・交流では、代表者を中心に活発に取り組んだ。

～拍手で承認

(2)平成 16 年度会計収支決算報告 <議案書 4 ページ参照>

<概要>

- ◆会費収入は予算を若干上回ったものの、会員数の横ばいから引き続き収入の大半は労組本部からの助成費で運営している。
- ◆主たる支出は、行事費で総会運営費を押さえ、活動費では加入パンフ作成費を労組本部からの援助により実績ゼロとなった。また全会員宛ての郵送料が若干オーバーした。
- ◆結果として平成 16 年度の収支実績は、収入合計 76 万 3 千円、支出合計 34 万 3 千円となり、次年度繰越金は 42 万円となった。

～拍手で承認

(3)平成 16 年度会計監査報告 <議案書 5 ページ参照>

●会計監査の橋本氏より、「8/31 に会計監査(天野、橋本)で平成 15 年 8/1～平成 16 年 7/31 までの財務諸表、7/31 現在残高などを厳正に審査を行った結果、会計処理はすべて適正であった」と報告された。

～拍手で承認

6. 議案 [14:35]

●大西事務局長より、(1)(2)一括で提案された。

(1)平成 17 年度活動方針に関する件 <議案書 6～7 ページ参照>

<概要>

- ◆これまで「会員拡大」を最重点に活動してきたが、現在の会員数は 120 名と横ばいであり、3 年目も引き続き会員の入会拡大に重点を置いた活動を強化する。とにかく地道にやっていくしかなく、「現会員 1 人が 1 人を増やす」ということを強く要請したい。さらに現役支部役員にも毎月の退職者に対する入会呼びかけの徹底をお願いする。
- ◆シニアクラブ本部・支部として具体的行事を企画・実行し、多くの参加を呼びかけて相互の親睦・交流を活発化する。また JAM 中央・地方の行事にも積極的に参加していく。
- ◆会員へは「JVC シニアクラブ便り」を発行し、情報提供を適時行っていく。

- ◆JAM シニアクラブ共済は、来年4月から従来の傷害に加えて「疾病」も含めた共済制度に一新される。これを機会に加入促進を図っていく。

※ 質疑なし

～拍手で承認

(2)平成 17 年度会計収支予算に関する件 <議案書 8 ページ参照>

<概要>

◆収入～会費は 120 名で 24 万円を見込み、労組本部より助成費 50 万円、前年度繰越金を含めて、収入合計は約 116 万円を計上。

◆支出～総会・幹事会など 27 万円、加入パンフ作成は 20 万円、本部活動・地方JAM参加費で 13 万円、支部活動補助を拡大して 20 万円、他に郵送料や事務費のゴム印作成などにより、支出合計で約 116 万円を計上。

※ 質疑なし

～拍手で承認

(3)役員改選に関する件

<議案書 9 ページ参照>

●田代幹事より提案された。

◆今回で退任される幹事4名(神奈川／遠藤功氏、神奈川／佐藤尚幸氏、東京／菊池武洋氏、群馬／長谷川光雄氏)の紹介および新たな幹事として、群馬／松岡参男氏、東京／藤野清氏の2名が補充された。

～拍手で承認

7. 新役員紹介 [14:45]

●新任の幹事2名を含め、全役員から自己紹介が行われた。

8. 閉会 [14:50]

●議長降壇、書記解任のあと、司会より第3回総会が無事終了した挨拶と午後 3 時からの講演会(下記)の案内が行われた。

■講演会 [15:00～16:00]

テーマ「地方自治における高齢化福祉対策について」～横須賀市議員・伊関功滋氏より

<概要>

◆自己紹介 昭和 38 年 8 月生まれ 平成元年入社 ビデオ事業部に配属

◆議員活動歴 1 年半 横須賀市議会会派では「研政 21」に所属
民生常任委員会では今年度は「健康福祉部」で活動中

◆神奈川県自治体別の高齢者福祉制度の実態と問題点

横須賀市では「おはなし聴き隊」、「転ばぬ先の筋トレ教室」の活動

他に横浜市、川崎市、相模原市、鎌倉市、三浦市などの制度を紹介

◆介護保険料の市町村別徴収実態と要介護認定者・申請率など

●午後 4 時から懇親会に移り、参加者全員による近況報告や懇談など午後 5 時半過ぎに終了。